

大好きな本の一言

皆さんこんにちは。記事をお読みくださって、ありがとうございます。

季節の変わり目は体調や心にも負担がかかる時期ですので、ご自愛くださいね。

私は、落ち込んだり、どうもうまいかない時に、ふと耳に入って元気になったり、目にして助けら
たりする一言があります。好きな音楽の歌詞だったり、CMの言葉だったりすることもあります。

他にも、本に出てくる登場人物の一言で、自分が救われたような気持ちになることがあります。

今回はその中の一つの本の言葉を紹介させていただきます。

「だけど、数えられないほどたくさんの物語なんです。」バス
チアンは叫んだ。「それに、その一つ一つからまた新しい物語
ができてくるし。そんなことをひきうけてくれるものはいるは
ずがありません。」

「いるよ。」

アトレユーがいった。

「ぼくだ、ぼくがする。」

ミヒヤエル・エンデ「はてしない物語」より

人間界からファンタージェン国へやってきたバスチアンは、数々の出会いと冒険
を経て、数えきれないほど多くの物語を紡ぎ出しました。そして人間界へ帰ろう
とするときに、その物語を全て終わらせてからでないと帰ることができないこと
を告げられます。

そのときに友人アトレユーが即座に言った言葉が、「いるよ。」「ぼくだ、ぼ
くがする。」です。自分の物語を丸ごと引き受け、抱えてくれようとするこの一
言に、バスチアンはどれだけ救われただろうと思います。

うまいかない時に、タイミングよく救いの一言はなかなか来るものではない
ですが、本の中でなら、自分がいつでも読み返して、言葉の力をもらうことがで
きます。私も小学生の時にこれを読み、胸が温くなりました。それ以来、大人
になってからも、時折読み返して本の言葉に浸ります。

皆さんの好きな本は何ですか？よかったらお気に入りの一言、探してみてください。

(Y. I)

引用・参考文献

ミヒヤエル・エンデ. (1982). はてしない物語. 岩波書店

河合隼雄. (2000). 「子どもの目」からの発想. 講談社 + α 文庫